

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2011年版） | 使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	教研出版新聞西本社ビル	階数	地上4F、地下2F
建設地	京都府京都市中京区烏丸通丸太町	構造	RC造
用途地域	京都府	平均居住人員	300 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,220 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年5月 予定	評価の実施日	2013年12月1日
敷地面積	1,452 m ²	作成者	有田、吉田、三畑
建築面積	1,209 m ²	確認日	
延床面積	5,584 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 3.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 74%

③上記+②以外の 74%

④上記+ 74%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 4.1

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>京都御所近傍の敷地による教育系出版社の新聞西本社ビルの新築計画。出版社のもつ企画・編集・製作・納品をスムーズに行うための合理的な動線・部署配置計画と、組織的に「智」を創造・発信すべく、「集中とコミュニケーション・コラボレーション」を活性化する先進的なワークプレイスの実現。また、立地特性である、井水・御所からの偏西風などを京都らしい多様な外部空間による採光・換気・空調計画に活か</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>・日射制御スクリーンを設置（建物東側） ・ウォールキャビネット上部を利用したライトシェルフを設置（建物西側）</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>天井高3.0mを確保し、西側のハイサイドライト・東側のフルライトの窓より、十分な採光を得られるように計画。</p>	<p>Q3 室外環境（敷地内）</p> <p>京都の景観と環境都市である背景を踏まえ、各階に多様な外部空間（緑地計画）を配置し、屋根を重層した歴史的景観に配慮したファサードを計画。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>太陽光発電の設置</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>敷地内井水の利用 地域産木材を利用 リサイクル材の使用</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>オール電化の採用</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される